



ピクタインダウシ

(おさみがりにぼし)

第 51 号

発行日 2025 年 4 月 10 日

発行人 矢代 しー

秋田市御野塩 7-1-29-305

紅鏡

三階の窓から朝焼けを眺める
恥じらいを下染めした

初春の帳が
秘めやかに開かれてゆく

生まれたての光が心を照らす

照射される光線が温かい
今日はどんな出会いがと

胸をふくらませる

紅色に輝くまるい鏡に

七十四歳の素の姿を映す

と アクティブな女が朗笑する

太陽はすでに高く昇り

北の部屋にも

春の熱気が満ちてくる

パイルの空 I

寒寒とした

パイルの空を

葉の群れが旅をする

大小入り混じった

葉の一团は雁^{かり}のように

あしたの方向に渡っていく

風が湿っぽい

葉も少し濡れている

互いに新しい気の波にのる

不思議な呼応

白い山膚を吹き上がる

北おろしが

白い息を吐き唸っている

やがて

日が暮れると

夜が黒く垂れ込める

凍てつく夜

星が微笑みはじめた

光の粒に照らされた

葉の群れは

木の葉しぐれのように

無垢のしずくを落とす

一葉の灯りは

消えかかった蠟燭のように

儂い

が

一塊の明かりは

光をまとった春のように

心を和らげる

どこまでも

静謐な

無窮の空

深々とした

夜の鏡に

葉のかたちが

くつきりと浮かび上がる

パイルの空 II

日が昇り

鴝^{とき}色の空が

静かに開かれていくと

葉の群れが

ゆっくり近づいてくる

旅の終わりを迎えたのか

葉の一団は

晴れた地で

思い思いにくつろぐ

風とたわむれる

お茶目な葉

旅の記憶を唄う

馬面の葉

気ままに寝転ぶ

腕白の葉

そつと口笛を吹く

キザな葉

饒舌に眠くなつた

おば様の葉

表情が明るい

疲れがないのか

不思議と暗さは感じない

瓜実顔の娘が

両手を広げて駆けてくる

肩に垂れた

緑の髪の毛が

規則的なリズムでゆれる

胸には

光のペンダント

朝日が反射して

眩しいほどの輝き

切れ長の眼で

何かを話しかけてくる

黒い瞳をじつと凝らして

空の青さに

堅苦しさが溶け込むころ

娘は

わたしに

ペンダントを手渡した

娘を抱きしめる

胸に伝わってきたのは

律動する鼓動

温かい心

娘との空間が縮まった

瞬間

表情がやわらいだ

通じ合えた

喜びは

一葉の意思

ペンダントをかざすと

金色の環が

日輪の輝きを放っている

娘は

足どりも軽やかに

仲間のもとへ

不意に

心地よい風が

頬をひと撫ですると

今までの

光景が

一瞬にして消えた

見慣れた部屋の

観葉植物

雪山の絵

黒の書架

室内に干した

タオルが湿っている

葉柄の模様も沈んでいる

布面に織り込まれた

輪^{わな}奈のタオルの

下方に

DREAM

の文字

茶色に縁取られた

パイルの空を

旅した葉の群れも
俯瞰した冬山も
星ふる夜も
すべてが
道化師の
夢



ハリエンジュ物語

ハリエンジュ*

初夏の波にのつて遊んでいる

まばらな葉から見えた

人影も車も

いまはない

一際背が高いハリエンジュは

大地にしかと根を張る

母なる木

枝葉を縦横に伸ばし

仲間と生きぬく力強さと

ゆるぎない気概も持つ

昨年の六月

すこやかに緑が増すなか

日ごとに葉を落とし

木肌も白茶けてきた

一本のハリエンジュがあつた

今夏

朽ちた木は

慈しみの葉をまとつた

四本の若木に支えられていた

心寄せあう茂みは

一つの家族

背の高いハリエンジュが

タクトを振ると

みんなが一斉に歌う

澄んだ歌声は

やさしい風の言葉のように

いのちの空へと

響きわたる

*ニセアカシア

①

この道はいつか来た道
この道はさつき来た道
この道はいま来た道

ここはどこ？

お家はどこ？

グルグルグルグル……

迷子！

②

（よく降りますね

見知らぬどうしで

ご挨拶

すれ違いざまに

ギャー

（大丈夫ですか？

八十半ばは

凍った道を

ペンギンのように

両手を広げ

こわごわの格好

また声

ギャー

【現代詩の勉強会】

●会の次第

去る四月五日(土)、あきた文学資料館において、第十六回「ピッタの会」を開催した。

内容は、「参加者みんなで創る詩の教室」。

参加者は九名。内、詩人協会外の参加者は三名であつた。

＊

今回は授業スタイルでの開催。参加者全員での授業は盛り上がった。

初めての取り組みではあつたが、程よい緊張感を味わえたのではないだろうか。

詩は掘れば掘るほど奥深く、簡単には解り得ない。だから、楽しいのかも知れない。

これから、実りある勉強会にしていきたい。

① 開会挨拶

② 詩の教室

③ 自己紹介

④ 質疑応答

⑤ 感想

⑥ 次回案内

⑦ 閉会

●アンケートより

* 詩の題材を例として、その作者の物事の真相や要点を見分ける心の働きなど、あらためて学ばせていただいた。眼に見える、見えないけれど、精神の深層部という観点は、とても重要だと思います。

人間が長い間つちかつてきた正しい真理にもとづいた表現が大事ではないかと感じました。多角点視点という立体的なとらえ方という考え方は、参考になります。ピッタの会は有意義です。ありがとうございました。

* たくさんの方の意見をきき、とても詩作の参考となりました。

多角点視点、とても興味がわきました。悩んだ時、あてはめてみると（詩作の中で）いいのかな?と思います。

勉強会で参考にされた詩を、図書館でさがし

て読んでみようと思います。

難しい内容でしたが、質問に対して答えることで、いつもより自分の意見を述べることできたと思います。楽しかったです。

* 人によっていろいろ違うということが、この講座の実践でよく分かりました。詩の読み方の参考になった気がします。

「題名をつける」は逆からやってみると題名の重要さが再認識される問題でした。

* すごく勉強になりました。

たった4行の詩で、こんなに深い意味があるのかと……。自分の書いた「詩」を見直すきっかけになりました。改めて「詩」って、難しいな〜と思いました。

朗読した詩が、とても良かったです。また、このような進め方、お願いします。

＊ 数時間で、1年分の独学に匹敵する「詩の読み方」「作り方」を学ぶ事が出来ました。

保坂、吉田、両氏の thought（思考）にも inspire（鼓舞）されました。矢代先生のリード、指導、非常に良いと思いました。

数十万円の価値のある授業でした。

作品の一字一句を読み解く方法も短歌会、俳句会のように、批判的な読み方が出来て、良かったです。

＊ とても奥深く、とても勉強になりました。詩作に役立てるようにして行きたいものです。いつもありがとうございます。他人の意見って大事で、とても参考になりました。

＊ 「人それぞれの読みとり方があっていい」と言いながら、矢代さんの考えが中心になりがちだったように思うので、参加者の想いをもっと取り入れてもいいように感じました。



【ご案内】

矢代レイ詩展——詩を書くよろこび——

日時 7月1日（火）～7月31日（木）

時間 9時～15時 無料

場所 秋田銀行本店 ロビー

秋田市山王3・2・1

なお、土曜日・日曜日・祭日はお休みです。
お問い合わせは、矢代レイまで。

☎ 090・1935・1180

【あとがき】

春と聞いただけで、心が軽くなる。空を仰ぐと、
どこか澄んで清潔感にあふれている。

細く黒い枝枝の波間にやわらかい光が漂い、芽
吹きをうながす。やがて艶めく黄緑色の枝枝に、
小鳥が憩う姿を見るだろう

*

いつも九時半頃に、仲良く散歩をしている二人
連れの女性を見かける。

よく見ると、かなりの年配。二人ともおしゃべ
りで、会話が途切れない。足と口の運動が健康を
保っているに違いない。

静かな歩道に笑い声が響く。

わたしまで嬉しくなる。素敵な
一日になる予感がする。

